

香取遺産

Vol.104

園生涯学習課 ☎(50)1224

光明院阿弥陀堂
源満仲ゆかりの古刹



▲阿弥陀堂(保存修理直後)



▲塚上の五輪塔

多田地区に所在する光明院は、平安中期の武將で、多田源氏の始祖である源満仲にゆかりのある真言宗の古刹です。本尊は大日如来で、八幡山西福寺と号します。

寺伝によれば、天慶のころ、下総国で反乱を起こした平将門を討つために南向した満仲が、亀甲山(香取神宮)付近に陣を構えたところ、そこから見える地勢が故郷の撰津国多田に似ていることから、この地を多田と名付け、八幡宮を勧請するとともに一寺を建立したとされます。

境内には、満仲供養のためといわれる塚があります。高さ2mほどで、周囲に墓域や擁壁などがあり、その形状は明確ではありません。塚上に高さ約1・8mの五輪塔が立っています。ただし、この五輪塔は、頂部に宝篋印塔の宝珠や九輪が載るなど、本来の形状とは異なります。いつの時期か石塔を組み直した際に誤ったものと思われる。塚は傍らの八幡宮とあわせ、市指定史跡となっています。

塚の北東側には、県指定文化財の阿弥陀堂が隣接します。方三間の寄棟造、茅葺き屋根の仏堂で、近年は前面屋根の劣化が始まっています。四周に縁を廻らし、建具は前面中央に嵌め殺しの格子戸、前面両脇間および側面手前二間は引き違いの板戸となっています。周囲に配された十二支が彫りこまれた墓股や組物などには胡粉や彩色の痕跡が残り、かつての彩り鮮やかな姿が想像されます。また、内部は天井や組物間の琵琶板に彩色画が施されています。

このほか、軒下の組物、柱の粽(上下端をすばめた箇所)、須弥壇、格天井など、禅宗様の建築の特徴が残っています。この阿弥陀堂は多田対馬守平胤秀という人物が、祖先の冥福を祈り天正6年(1578)に建立したと伝わりますが、以前実施した保存修理の調査では、棟札などの建立を裏付ける資料は確認できませんでした。ただし、各部分の様式的特徴から、少なくとも近世初期に遡るものと推定されます。

また一つ年を重ぬと喜寿夫婦 仲むつまじく 雑煮に祝う 小松原 忠(府馬)

湯豆腐や土方仕事を労ひし 大川 千代子(加藤洲)

香取歌壇

稲村 恒次選

・旧仮名遣い

また一つ年を重ぬと喜寿夫婦 仲むつまじく 雑煮に祝う 小松原 忠(府馬)

評 異常気象の続く中で迎春であったが、この地方は幸い穏やかな正月であったと言えよう。掲出歌は新春を寿ぐ穏やかめでたい作品として取り上げた。「また一つ年を重ぬと」という会話が聞こえるようで和らぎを覚える。

孫よりの手紙の中に入れてあり初バイト代と 加瀬 武子(高萩)

新聞を配るバイクの音すなりいかに寒からん 加藤 昭(田部)

二月ま近し農機具そろえ種選ぶ若きら去りし 宮崎 弘(白井)

町川の流れば今日もゆるやかに冬陽浴びつつ 鈴木 一満(八筋川)

眼を病める友より柚子の届きたり大きな文字の手紙を添えて 奥村 利夫(一ノ分目)

文芸

作品募集

はがき一枚に俳句2句・短歌2首のどちらかと、本名、住所、電話番号を記入し、〒287・8501 広報かとり「俳句」または「短歌」の係まで。毎月15日までの到着分(12月10日締切)を審査し、翌月号に掲載。掲載される作品は、選者により評を踏まえて添削される場合があります。

香取俳壇

谷本 元子選

冬銀河彼の世の人のささやきか 鈴木 幸(佐原イ)

評 冬は大気が澄み、凍空に煌めく星座はことさら鋭く美しい。掲句は、冬銀河の瞬きを、逝きし人の「ささやき」と捉えた心象句である。斗志先生哲郎先生の瞬きはどれか、笑顔が忘れられない。

独りとは淋しき自由落葉踏む 山本 美津江(阿玉台)

まだ生きて居るよと戦友から賀状 宮田 勉(津宮)

湯冷めにも気づかず星にとらはれて 加藤 裕太(佐原イ)

和太鼓の響きに去るや冬將軍 関根 大徳(小見川)

湯豆腐や土方仕事を労ひし 大川 千代子(加藤洲)



平成27年(2015)2月15日号 No.214

編集 香取市役所総務企画部秘書広報課
〒287-8501 千葉県香取市佐原口2127
TEL 0478-54-1111 FAX 0478-52-4566
http://www.city.katori.lg.jp

今月の納期限

3月2日(月)

国民健康保険税 (8期)
介護保険料 (8期)
後期高齢者医療保険料 (8期)

今月の休日納税相談日

2月22日(日)

編集後記

私は今回ひげなで祭の取材を担当しました。取材も初めてでしたが、このお祭りを見るのも初めてでした。

私と同じカメラマンで、外国人の方が1人いらっしゃいました。カメラ2台構えの気合いたっぷりな様子で黙々と撮影していた写真に、日本人から見ても珍妙なひげなで祭はどんなふうに見えたのでしょうか。最近作られた「見日本らしい」ものよりも、800年続く伝統行事のありのままの素朴な祭りに、ある意味「本場の日本らしさ」を感じていただけたら、と思います。(N)